

(様式1)

平成30年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 105	提案機関名 神奈川県環境農政局緑政部水源環境保全課
要望問題名 水源林の整備技術の改良	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 これまでの取組により水源林の確保面積が累積し、水源林整備事業については、整備効果の検証や効率的な施業技術、整備による生態系サービスの向上が求められている。 しかしながら、これまでのモニタリングで、丹沢地域において、水源林の下層植生が、シカの採食の影響を受けていることが確認されている。 また、箱根山地や小仏山地では、シカの定着と生息密度の上昇が見られ、今後、シカの採食によって林床植生が衰退して、森林整備の効果が十分発揮されないことが危惧されている。 平成24年度から丹沢大山の水源林においてシカの捕獲と整備を連携した取組を開始し、平成29年度からは丹沢大山周辺地域においてシカの生息状況の把握などシカ管理の取組が実施されることから、シカの影響を把握した上で、確実に森林整備の効果を発揮させることが求められている。 このことから、水源林整備技術の確立、水源林整備地のモニタリング、森林生態系の効果把握についての試験研究の継続を要望する。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター	担当部所	研究企画部研究連携課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 混交林の管理技術の改良、森林生態系効果把握調査による水源施策の2次的アウトカム、シカと森林の統合管理手法の確立			
対応の内容等 当センターとしても同様の認識にたつて、シカの影響下での森林整備の効果に資する研究を上記試験研究課題で行っていきます。その調査結果を例年の担当者会議で報告したり、各センターに年次報告書を配布したりして、モニタリング情報の共有化に努めます。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			